

# 下野市立薬師寺小学校

## 1 学校課題

### 主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成

～関わり合いを通して、基本的表現を身に付ける授業の創造を目指して～

## 2 研究計画

- (1) 関わり合いを通して、基本的表現を身に付ける授業を創造する
  - ・関わり合う場の意図的な設定
  - ・児童の興味・関心が高まる題材や学習課題の選定
  - ・基礎的な語彙や表現方法の定着のための工夫
  - ・ゴールの明確化と授業の流れの一定化
  - ・深い学びにつなげるための他教科等との関連
- (2) 対話活動を充実させ、学びが深まる授業を創造する
  - ・目的を明確にした対話活動の充実
  - ・授業のゴールの明確化とその実現のための発問の吟味
  - ・付けるべき力を目指した効果的な学習過程の工夫
  - ・教育専門家を招き、授業力の向上を図る
- (3) 小中一貫教育を意識した系統的な指導と実践
  - ・「育成すべき資質・能力」の研究
  - ・「知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」の育成
  - ・9年間を見通した学びの系統性の研究

## 3 研究内容

### (1) 研究の方法

- ① 研究教科を外国語活動とし、学校課題追究を意識しながら毎時間のレッスンプランを作成する。また、市教育委員会指導主事に日々の授業に入っていたり、研究授業の指導案作成の際にアドバイスをいただいたりするなど、直接指導を受けながら授業づくりをしていく。さらに、研究の推進については、職員を低、中、高の3ブロックに分け、各ブロックで指導案検討会や事前授業及び授業検討会を進める。



- ② 「主体的に表現し、伝え合う児童」の育成のため、効果的な対話活動を取り入れ、児童の学びが深まる授業の実践を意識していく。授業力向上のために、S&U コラボ事業を活用し、宇都宮大学附属小の先生に授業づくりに役立つ実践的な講話をしていただき、学んだことを日々の授業づくりに生かすようにする。



- ③ 授業研究会を充実させるため、研究授業においては、参観者が重点的に観察する児童をあらかじめ分担しておき、児童の現状と変容を見取りやすくする。授業研究会では、少人数での話し合いを取り入れ、活発に発言できる雰囲気作りを心がける。また、視点を絞った検討を行い、内容の充実を図る。

(2) 研究の実際 主な実践内容

日時	形態	授業者	教科	授業内容・外部アドバイザー	学年
4/10(水)	校内研修	学校課題研修	学校課題の説明		研究主任
5/29(水)	校内研修	学校課題研修	授業研修計画の確認		研究主任
7/11(水)	共同訪問	吉川 葵	国語	「たからものをおしえよう」	1年
		稲葉 恵子	道徳	「メイとキャンプ」	2年
		今城 生子	外国語	「Do you have a pen?」	4年
		佐藤 史昌	算数	「速さ」	6年
7/31(水)	S&U 事業	講話「対話的な学習活動を通して読む力を高める国語科の授業づくり」 宇都宮大学教育学部附属小学校 八巻 修先生 市教育委員会指導主事 土田 礼巳先生			研究主任
11/12(火)	人権研修	椿 恵実	学活	「望ましい人間関係の形成」	3年
11/19(金)	校内研修	芋川 晴恵	外国語	「I want you go to Italy.」	5年
12/18(水)	要請訪問	篠原 魁	外国語	「Where is the treasure?」 市教育委員会指導主事 稲葉 亜希恵先生	5年
1/20(月)	校内研修	学校課題の振り返り			研究主任
2月	校内研修	次年度の計画案			研究主任

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ① 外国語活動について、日々の授業づくりでも学校課題追究を意識して取り組むことができた。児童の興味・関心を生かしながら関わり合う場を工夫するなど、児童の実態に合わせた授業づくりが、児童の主眼的に表現する意欲の向上に繋がっていくことが分かった。また、低学年の英語活動でも、相手を意識して質問したり、答えたりする活動を取り入れ、中学年以降の外国語活動への繋がりを意識して授業を組み立てることができた。
- ② ブロック単位での指導案検討や事前授業の実施などの研究推進は、授業力向上や教師一人一人の学びのよい機会となった。また、宇都宮大学附属小学校の先生による授業づくりについての研修では、対話活動についてより実践的な方法を学ぶことができ、スキルアップに繋がった。
- ③ 研究授業では、参観者の観察するグループをあらかじめ指定することで、児童の見取りがしやすくなった。さらに、授業研究会において、同じグループを観察したメンバーで班を構成し、児童の変容をもとに授業づくりについて話し合うことができた。



### (2) 研究の課題

主体的に表現し、伝え合う児童の育成は、研究教科である外国語活動の時間だけで達成できるものではなく、日々の授業の中で培っていくものが多い。そのため、全教科の授業において、対話活動への取組をより充実させ、相手への尋ね方や話のきき方、話のつなぎ方など、コミュニケーション能力を身に付けていく必要がある。また、外国語活動の授業では、児童が楽しく交流できるようにするために、その基礎としての語彙を増やす活動も充実させていく必要がある。

